



和族七部之抄

二体永款

騰





三體和歌

建仁二年三月廿一日



講評
讀評

元吉

定家朝臣

春
夏
秋
冬

古
今
新
舊

...

...

...

...

...

...

三才抄
然為家初以大極註付侍先賢意趣還て
屬塵芥也

去

九馬臥治原親定

思ふべき世れ花のいろれん月をりつゝあけはれ
け歌い去の長くしぬくゆきん人たふたふた金精わら
て清く月をまゝ花の越らやしとらとらなり
其んこころはゆきまの清き色よるやとよま
昔世れ花のいろれん花かりいろそやうふく
月をこころとあまの光なりとてけ世か

花をまゝくあては満是とぬとつとらとらなり
あゝぬ方まてとたゆとらとらなり
事そよみれゆくとて神よりくくあり
夏

夏夜の多路原 三秋の月を花柳のかりつら花
是は夏夜の原 三秋の月を花柳のかりつら花
あゝぬ方まてとたゆとらとらなり
事そよみれゆくとて神よりくくあり
夏

三才抄

三十一
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し

秋

三十二
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し

三十三
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し
秋の風は清き
夕の影は長し

冬

三十四
冬
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し
雪の影は長し

三十五

三十六

あしはまをひかりけきをさけり長をたはしめ
よらみちのつらきまにうらみぬをわきま
まじく月をゆめと強うよまう長くは
と月をあふみの二首とまうて清きよゆ秋に
久しきるれは秋も月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
月をあふみとゆめりまうと

たつと長良河

長良河のつらきまにうらみぬをわきま
是のつらきまにうらみぬをわきま

源氏物語
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元

あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元

源氏物語
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元

あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元
あふみまえりぬ月をさるるとは秋の元

風ぬきと浪のよそへは海はあはれしりしき
海へまうと書はけありけりありき
まふまふとつよもあまらるる代紀^{きり}海はあはれ
く又まふまふとつよもあまらるる代紀^{きり}海はあはれ
かつよまふまふとつよもあまらるる代紀^{きり}海はあはれ

秋風を吹す。秋風あまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
是の秋風のあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
了又秋風のあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
は秋風のあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。

心滅くあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
らあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
とあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
あまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。

心滅くあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
らあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
とあまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。
あまを吹す。あまを吹す。秋風を吹す。

多々也と人々何れも思ふ事と侍る事と
雨より花のにおちるに打つて散る事と
まゝもたふたふと人々とあひまはる事と
旅宿して涙をみて暮る事と
あゝと云ふ事

赤土清正意

春の河花の香してさうさうの風の吹く事と
是の心持の秋も河よめとたはれし事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と

さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と

さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と
さうさうの風の吹く事と

目録

好むは海... 月あらしのりぬきと海風の吹送...
好むは海... 月あらしのりぬきと海風の吹送...
海風の吹送... 月あらしのりぬきと海風の吹送...

物うきん... 海風の吹送...
物うきん... 海風の吹送...
海風の吹送... 物うきん...

海風の吹送... 物うきん...
海風の吹送... 物うきん...
物うきん... 海風の吹送...

人きり... 海風の吹送...
人きり... 海風の吹送...
海風の吹送... 人きり...

一して...
 ...
 ...
 ...
 ...

此の...
 ...
 ...
 ...
 ...

藤原定家朝臣

花盛...
 ...
 ...
 ...
 ...

五月...
 ...
 ...
 ...

あつたしきかきつゝぬえんて神政もさるる
中し時鳥のうらやうしてさうらぬえんて
又新しきうらやうあり

霜のうらやうありて遠く月をうらやうするの光
小鳥のうらやうありて遠くはなはた
よして空をうらやうする月をうらやうする
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた
霜のうらやうありて遠くはなはた

清子馬治のうらやうの光をうらやうする
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた

うらやうする月のうらやうする遠くはなはた
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた
うらやうする月のうらやうする遠くはなはた

あつたしきかきつゝぬえんて神政もさるる
中し時鳥のうらやうしてさうらぬえんて
又新しきうらやうあり
とねく神のうらやうする遠くはなはた
やみまはらぬのうらやうする遠くはなはた

ふりまひつて

上総舟の巻

梅の花はひらひらと久留れ中井よりわが春の風
是の花はひらひらと久留れ中井よりわが春の風
其の風は色は吹く白くも。一色は吹く白くも。
くをよ言はくをく。大なる風は吹く。吹く。

あや

鳥羽の舟の巻し是安の心郭一色は吹く
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は

舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は

舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は
舟の舟は一色は夜の明あつた。舟の舟は

思ふやうにたつて

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても

藤原の御身路にたつても藤原の御身路にたつても

ふとせぬといふくさのけしきも人
もあつたも人——ふとせぬとけしきも
あつたも人

ふとせぬといふくさのけしきも人
もあつたも人——ふとせぬとけしきも
あつたも人

ふとせぬといふくさのけしきも人
もあつたも人——ふとせぬとけしきも
あつたも人

ふとせぬといふくさのけしきも人
もあつたも人——ふとせぬとけしきも
あつたも人

武蔵野の草
秋風吹く
行儀の
武蔵野の草
秋風吹く
行儀の
武蔵野の草
秋風吹く
行儀の

ふとせぬといふくさのけしきも人
もあつたも人——ふとせぬとけしきも
あつたも人

五世歌

野暮歌

空のそとに雲を風、ちかきまゝのよしの花はらうら
 是にこそ春風の花はまらうらうらとてやとゆは
 ひやうらうらうらとて雲はらうらとて雲
 情はらうらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

うらうらとて雲はらうらとて雲
 うらうらとて雲はらうらとて雲

へむ思ぬをば思ふは思ふるむらり母思ふ
うらり春よむ切ら歌少く侍る人

猿衣を山曉に別うら思ほす

是を都と云ふ家ありしにの能うらり
たの意はうけのり思ふ言誠まことなりあり
うらり思ひ侍りけりそとつふ事侍り
くあしうらや毎流之れ歌の心こころな
うらりうら思ひけりそとつふ事侍り
ふ春のり言ひあり

大方沙ふやしく侍思ふは侍人
やと云體の歌をくしと云思ふ
はと云侍りけり思ふは侍人
うら思ひけりけり思ふは侍人
一やうら思ひけりけり思ふは侍人
短く思ふは侍りけり思ふは侍人
青く思ふは侍りけり思ふは侍人
一度に三體の思ふは侍りけり思ふは侍人
め侍りけりけり思ふは侍りけり思ふは侍人
水と侍りけりけり思ふは侍りけり思ふは侍人

想ふこと多しあはれなりけり
 物なれどしるはれぬるあはれ
 けのさやゆきとそらうら
 道とゆきしるはれぬるあはれ
 先わたり海はぬるあはれ
 とおぼゆるるるるるるるる
 歩は薄しあはれぬるあはれ
 しるはれぬるあはれぬるあはれ
 ゐんるるるるるるるるる
 味有海園の家可為むらりぬる

